

■和泉式部 奔放な恋に生きるも、一流歌人として評価され、「和泉式部日記」を遺した。

いずみしきぶ

・・・・・・ 980＝ 生没年不詳だが、この頃、生まれる。越前守大江雅致の娘。母は平保衡の娘。
幼名を御許丸といい、のち江式部と呼ばれた。

尾張国守罷免 989＝ 9歳：

早くから歌に秀で、父の関係で昌子内親王に仕えた。

花山法皇事件 996＝16歳：この前後に_和泉守橘道貞と結婚し、夫の官名により和泉式部と呼ばれた。

・・・・・・ 998＝18歳：

藤原彰子入内 999＝19歳：この頃_道貞との間に小式部内侍を生んだが、
*離別。親しかった赤染衛門から、別れるのを思いとどまるよう歌を贈られるも、気持は変わらず、「花山院歌合」などに出席して歌人として活躍して行く。花山院の弟の弾正宮漏鄧親王と結ばれるが、

・・・・・・ 1002＝22歳：親王は死去。源雅道、道命阿闍梨との間にも交渉を持ち、

・・・・・・ 1003＝23歳：*為尊親王の弟の帥宮敦通親王との間に新たな恋をはじめ。『和泉式部日記』は、この年の出会いから、

和泉式部日記1004＝24歳：敦通親王の邸に引取られるまでの2人の恋を歌の贈答を中心に物語ったものである。

・・・・・・ 1005＝25歳：賀茂祭には、親王と式部が同車で豪華な振舞いに及んで衆人を驚かせたことが「大鏡」や「栄花物語」に見えている。父雅致は式部のこのような振舞いに耐えかね勘当、道長は浮かれ女と評した。

・・・・・・ 1007＝27歳：敦通親王も死去し、2人の恋は終わった。

源氏物語始・1008＝28歳：花山院が死去。
_その後上東門院彰子に仕え、紫式部や伊勢大輔と親しく交わり、赤染衛門と歌の贈答をしていたが、
しばらく女房生活を送ったのち、

・・・・・・ 1013＝33歳：この頃、*藤原道長の家司の1人だった藤原保昌と再婚し、その任国の丹後に下った。

御一条天皇・1016＝36歳：

三后鼎立・1018＝38歳：

・・・・・・ 1025＝45歳：

藤原道長没・1027＝47歳：保昌は大和守となり、その後摂津守も兼ね、

・・・・・・ 1034＝54歳：

・・・・・・ 1036＝56歳：保昌は、この年79で死去した。
式部は保昌と不和を生じ、離別したともいわれるが、晩年の行跡は不明である。

_没年不明

「和泉式部集」の正集には839首、続集には647首が収められている。「拾遺集」から「新古今集」までの勅撰集に2129首が入集。